

関東大震災から100年

今年令和5年は関東大震災から100年ということで、新聞等でこの大震災に関係することが掲載されています。9月1日が「防災の日」になったのも、この関東大震災の起こった日です。

先日の読売新聞では、この関東大震災を予知した東京帝国大学地震学教室助教授今村明恒博士のことが載っていました。博士は関東大震災の18年前に、東京を襲う大地震に関する論文を雑誌に公表していました。即ち、地震予知ですね。今村博士の上司で、「日本の地震学の父」と呼ばれた大森房吉教授が、科学的根拠に乏しいと、今村博士の説を退けましたが、大正12年(1923)に最大震度7相当の揺れが首都圏を襲い、このことから、今村博士は、最初に地震を予知した人と言われたのです。その後、博士は南海地震の予知のために、紀伊半島へ私財で地震計を設置して研究したということです。昭和8年に、広村を訪れた博士は、村役場に防災上の注意点について助言され、小学校の時代から防災教育の重要性を文部省に進言しました。昭和12年に「稲むらの火」が教科書に掲載されて、同年には『「稲むらの火」の教方に就て』という冊子を学校に配布しました。

今村博士は、昭和21年の昭和南海地震津波の翌年には「南海道沖大地震津波＝昭和の南海道大地震津波につき廣村の人々に寄す＝」という文章を広村役場へ寄せています。

このように、大災害を伝承する記念日にも、「稲むらの火」が話題にのぼってきます。それだけ「稲むらの火」が災害を伝承する教材として、資料として重要視されているのかなと感じます。

大正の関東大震災は首都直下地震と思われていましたが、実際は相模トラフを震源とする海溝型地震でした。また、犠牲者10万5000人のうち9割が焼死であったため、大火災であったと思われがちですが、揺れによる倒壊、液状化、津波、土砂災害など、さまざまな被害が複合的に起こった大震災であったのです。

濱口梧陵国際作文コンテスト

「世界津波の日」が制定されて以来、「濱口梧陵国際賞」が制定され、津波・減災に関して顕著な功績を挙げた国内外の個人又は団体が表彰されてきました。受賞者の方々も、ほとんど「稲むらの火の館」へ来られています。

今年度から、新たに、沿岸防災技術のより一層の普及・啓発を図る取組として、高校生を対象に「濱口梧陵国際作文コンテスト」が実施されることになりました。日本国内外の高校生(国外であれば日本の高等学校に相当する教育機関に在籍する学生)から津波防災等の作文を募集しています。国際的な作文コンテストですから珍しい催しです。振るって応募してください。

テーマは、濱口梧陵エピソード(稲むらの火の館のホームページ参照)を読んで、「考えたこと」「感じたこと」「体験したこと」「思うこと」を自分の言葉で語ってください。


募集は5月29日から始まっています、7月31日に応募締切となっています。主催は、国際津波・沿岸防災技術啓発事業組織委員会、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所(046-844-5040)へお問合せください。

なお、稲むらの火の館(0737-64-1760)にも募集要項のチラシがありますので、お問合せください。稲むらの火の館ホームページにも募集要項を掲載しています。

2023年濱口梧陵国際作文コンテスト

別紙1

<濱口梧陵について>  
現在の和歌山県広川町で生誕。安政元年(1854年)突如大地震が発生、大津波が一帯を襲いました。このとき、稲むら(稲波を積み重ねたもの)に火を放ち、この火を目印に村人を誘導、安全な場所に避難させました。その後、被災者の小屋の建設、防災堤の築造等の復興にも取り組み、後の津波による被害を最小限に抑えたと言われています。



稲むらの火  
(資料提供:内閣府防災担当)

テーマ	濱口梧陵エピソード「を語って」「考えたこと」「感じたこと」「思ったこと」を自分の言葉で語ってください。 *詳しくは、別紙1「稲むらの火の館」をご覧ください。 <a href="https://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuraohisiro_y_inamura.html">https://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuraohisiro_y_inamura.html</a> 国内外の高校生(国外であれば日本の高等学校に相当する教育機関に在籍する学生)(2023年7月31日時点)
応募資格	・日本語、英語のいずれかで応募してください。 ・本文の長さは、日本語の場合1,600字以内。英語の場合700語以内。 ・応募作品は1人1点に限り、かつ、 ①作文の題名、②氏名(ふりがな)、③年令(2023年7月31日時点)、④現住所(郵便番号を含む)、⑤eメールアドレス、⑥電話番号、⑦学校名・学年、⑧文字数(英語の場合は語数)を提出様式に従って記載してください。 ・eメール又は郵送にて応募してください。 ・応募作品は、未発表のオリジナルのものに限り、著作権が明瞭な場合は失格となります。 ・応募作品は返却しません。 ・受賞作品は国際津波・沿岸防災技術啓発事業組織委員会が自由に発表することを含め、応募してください。なお、応募作品の著作権は応募者に帰属します。 ・応募者に関する個人情報は、応募作品の審査に関する確認、受賞者に対する審査結果の連絡の目的以外には使用しません。
表彰	優秀賞 3点(最大)、入選 15点(最大) ※全ての応募者に参加証明書をeメールにてお送りします。 ※優秀賞または入選の受賞者には、賞状をお送りします。 ※優秀賞の受賞者は、濱口梧陵国際作文コンテストにおいて、総務課またはビデオカメラでご紹介する予定です。 ※優秀賞の受賞者が在籍する高校には、沿岸防災の教育活動(書籍購入等)に寄付していただくため、10万円相当する予定です。
審査	濱口梧陵国際作文コンテスト審査委員会において選考します。
発表	2023年10月頃、国際津波・沿岸防災技術啓発事業組織委員会(事務局)のウェブサイト上、受賞者の氏名、学校名・学年、作品を掲示します。
応募締切	2023年7月31日(月) 必着
応募宛先	〒239-0826 神奈川県横浜府 長瀬3-1-1 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 国際津波・沿岸防災技術啓発事業組織委員会(事務局) <a href="https://www.pari.go.jp/event/seminar/hamasuchi-award/2023/2023-sakubun/index.html">https://www.pari.go.jp/event/seminar/hamasuchi-award/2023/2023-sakubun/index.html</a> E-mail: hamaguchi_essay@p.mpat.go.jp TEL: 046-844-5040

# 百世安堵

関西大学社会安全学部 近藤誠司

## 第28回 こころの固有周期

2023年5月5日、石川県で最大震度6強を観測した地震で、気象庁は緊急地震速報に、建物の高層階をゆっくりと揺らす長周期地震動の予測情報を初めて盛り込んで発表した。そして実際に、同県珠洲市三崎町で長周期地震動の階級3が観測された。ちなみにこのとき、大阪市では震度1を観測、大阪市阿倍野区にある商業施設「あべのハルカス」のエレベーター3基が停止した。

地震による揺れには、短周期と長周期の両極がある。また、建物のほうにも、「共振」して揺れやすくなる「固有周期」がある。がたがたグラグラと揺れる1～2秒の短周期は、木造住宅の固有周期と“相性”がよく、住宅密集地の被害拡大要因となる。俗に、キラーパルスと呼ばれている。

一方、ゆ～らゆ～らとゆっくり揺れ、遠くまで到達する長周期地震動は、高層の建物と共振する。東日本大震災のときも、震源から離れた東京や大阪のビルが揺れた。だから、長周期地震動の予測情報が今年から提供されるようになったのだ。

さて、ここでひとつ問題になるのは、人びと(社会)の「受け止め」である。せっかく情報があっても、それを活かそうという思いがなければ、減災効果には疑問符が付いてしまう。だからと言って、「覚えなさい!」と号令をかけても、なかなか即座に(素直に)応じられるものでもない。

ここで、人のこころにも「固有周期」がある、と考えるとわかりやすいだろう。「とにかく大事なのだ!」と教え諭すことですぐにこころを揺さぶられる人もいれば、ゆっくりじっくり回り道をして伝えられたほうがこころを揺り動かされる人もいるに違いない。リスク・コミュニケーションには、だから、多様な手法が求められるのだ。そして、“より遠くまで”という観点に照準すると、長周期＝ゆっくりのほうが、大地も人も馴染みやすいものなのかもしれない。

## 【館長日記】

6月2日、大雨が降りました。私が、朝家を出る時には大雨警報は出ていませんでした。だから、子ども達も登校したと思います。その後で、警報が出たので、皆迎えに行ったのでしょうか。

広川の増水の状況を聞いたりして、情報を集めました。写真を送ってもらったりしました。あち



こちで、川の堤を越流していました。ひょっとしたら、「広川」は昭和28年の「7・18水害」以来の大水であったかもしれませんね。

「線状降水帯」という言葉は、近年よく聞くことですが、それがこういうことだったのですね。

農作物にもたいへんな被害が出たでしょう。少し遠くへ通勤・通学をしていた人達も、影響があったようですね。高速道路は通行止め、電車は止まってしまいました。国道は冠水して、通行できない。仕方がないので、宿泊しようと思ったら、ホテルはどこも満室。帰宅困難ということは、このことを言うのでしょうか。

「稲むらの火の館」には、和歌山地方気象台からいただいた大雨・台風・気象予報や地震・津波に関するパンフレットをいろいろ置いています。

興味のある方はお持ち帰りください

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター

〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

\*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

\*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

(世界津波の日の11月5日は開館)

年末年始(12/29～1/4)

\*記念館だけの入場は無料です

\*また、6月15日と11月5日は無料です